

梁川ホームだより

No.

11

●平成16年3月1日発行

(題字 佐藤理事長)

発行責任者

社会福祉法人信達福祉会 総合老人福祉施設梁川ホーム施設長 夙地 勝正
福島県伊達郡梁川町字東土橋65-1 TEL 024 (577) 6111(代) FAX 024 (577) 6115

事業内容

- 特別養護老人ホーム 梁川ホーム 定員80名
- 短期保護施設(ショートステイ) 定員20名
- デイサービスセンター I型
- デイサービスセンター II型
- 梁川町在宅介護支援センター
- ケアハウス広瀬 定員30名
- 居宅介護支援事業所

[梁川ホーム運営理念]

安全・安心・ゆとりの

梁川ホーム

1. 梁川ホームは、利用者の主体性と自主性を尊重し、人間としての尊厳に根ざした介護を進めます。

2. 梁川ホームは、家族・地域社会との連携を密にし、あたたかい家庭的環境を築きます。

2004.新年会なごやかに



東大枝大條太鼓保存会の皆さんの見事なバチさばきです

おいしいお餅がつき上がるのを首を長くして待っています

鏡割り、気持ちを合わせて「せーの、エイ！」

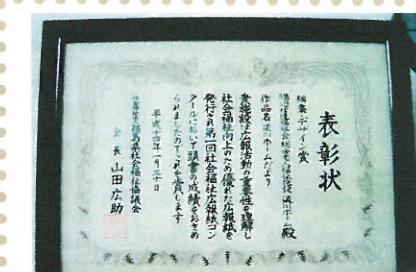


新春を祝い、1月4日に梁川ホームの新年会を行ないました。

恒例の樽酒の鏡割りに始まり東大枝大條太鼓の景気づけの音で、もちつきが威勢よく行なわれました。つきたてのものは、さっそくあんこもちや雑煮もちにして、利用者の方々に味わっていただきました。臼ものは、やっぱりおいしいと好評をいただきました。

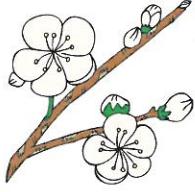
年の始めに皆様のお元気なお顔を拝見し、園長以下職員一同今年も笑顔と細心の注意を持って、お世話をさせていただきたいと心新たにしました。今年もよろしくお願い致します。

また、東大枝大條太鼓保存会様、シルバー人材センター様、ボランティアひろせ様には、ご協力をいただきましてありがとうございました。



三年連続で
「梁川ホーム
だより」が広
報紙コンクー
ルで受賞

平成十三年に始まった福島県社会福祉協議会主催の広報紙コンクールで、「梁川ホームだより」が、平成十三年には、「編集・デザイン賞」を、平成十四年には「福島県社会福祉協議会会長賞」の最高賞を受賞、平成十五年には、「よみごたえ賞」を受賞しました。これを励みに今後も皆様の手にとっていただける、福祉情報発信紙作りを目指していきたいと思います。



特集10 「人間尊重の施設づくりに向けて」 — 梁川ホーム運営理念具現化への第一歩 —

のから、生活訓練を重ねて将来的には在宅への復帰も促すものへと大きな転換が求められています。

しかし一方、現実に入所していた場合には、要介護状態は重く、痴呆症状も重く、自宅で介護に専念出来るご家族がいらっしゃつしやらない方について優先的に入所していただきようとの、厚生労働省からの指導もあり、在宅復帰どころか、これまで以上に施設における終末ケアの必要性、またその内容が問われてくる

いうに過ごすことが出来るのか。
という、質的なことが問われてくるのではないでしようか。

振り返ってみれば、当ホームにおきましても、退所がそのままお年寄りの死亡を意味していった時期にあっても、最後の最後は容態が悪化すれば病院に入院していくいただき、結果、病院で亡くなられるケースが殆んどでした。それでも、ご家族やご本人の希望により最後までホームでお世話をさせていただいた方も、何人かいらつしやいました。

最近では、ホームで最後を迎えるたいと希望される利用者本人やご家族が少しずつ増えてきている状況です。

これまで、ご家族の希望が

平成十二年度より介護保険制度が始まつてから、特別養護老人ホームの施設としての役目は、それまでの終末施設というものが、在宅への復帰も重ねて将来的に促すものへと大きな転換が求められています。

現代は、生活様式の変化により、誰もが必ずしも、自宅で看取られる終末を迎えるわけではなくなりました。病院でお亡くなりになる方も多いのを見たことはあります。

あつた場合には…ということでお家での看取りに取り組んできましたが、もっと積極的に、終末ケアを考えていっても良いのではないかというのが、現在のホームの考え方です。

実際にホームで最後までお世話をさせていただく場合について紹介させていただきます。



住み慣れた場所で仲間とともに。

点滴程度の治療の状態である場合は、ご本人に残された時間はあまりありません。

その残された時間をホームで過ごすとご家族から申し出をいたします。これは、限られた時間をご本人とご家族に、誰にも気兼ねすることなく過ごしていただきたいという考え方です。簡単なものが、長椅子等もご利用して、昼夜を通してお部屋でお年寄りの側にいていただくことも出来るようにしていきます。また別室で泊まっていただくことも可能ですが、（お食事はご家族で用意していただくことになります。）

職員は出来るだけご家族のお邪魔にならないような形で、時間ごとに訪室して、必要なお世話をさせていただきます。

但し、皆さんにお断わりしているのは、梁川ホームはあくまでも生活施設なので、医師は施設にはいないことと、看護師も夜間は不在となるということです。

職員だけがお年寄りのことを心配しているわけではなく、ご家族だけが介護の負担を抱えな
くても良い、ご家族とホームの二人三脚でお年寄りの生活を支えて
いる今日が、その方の最期の時まで変わりなく続していく

用意して、昼夜を通してお部屋でお年寄りの側にいていただくことも出来るようにしています。また別室で泊まつていただくことも可能です。（お食事はご家族で用意していただくことになります。）

職員は出来るだけご家族のお邪魔にならないような形で、時ごとに訪室して、必要なお世

職員にとつても、毎日お世話をさせていただいていたお年寄りが、最後に病院に入院され、そのまま還らぬ人となるというのは非常に空しい思いが残ります。ずっと最後までホームで過ごしていただきたい、最後のケアの中で、お年寄りに少しでも、「私の人生も満更悪いことばかりではなかつた、生まれてきて良かつた。」と心の奥底で感じていただけのようなお世話をしたいだけというのが職員の本当の気持ちです。

夜間急変があつた場合には、
当番看護師に連絡を取り、口頭
での指示、または看護師が出務
しての処置ということになります。

その点をご理解いただいた上で
のホームでの看取りとなりま





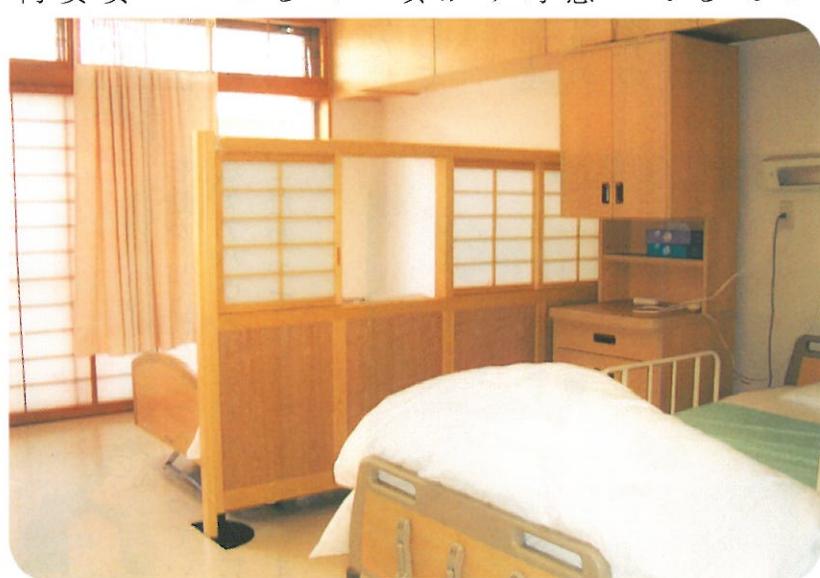
書道クラブ



クリスマスの飾りつけ



2月3日の豆まき



介護する側として不安もありました。重度の要介護状態の方の様子が伺

家庭とは違い集団生活である為どうしても時間で決められた生活になってしまいがちです。そんな中でいかに楽しみを持つていただけるか、メリハリある暮らしを送つていただけるか。そこで力を入れているのがクラブ活動や毎月の行事です。クラブ活動として定期的に行っているのが書道クラブ、将棋クラブ、陶芸クラブです。それぞれ栗野書道クラブ様、梁川将棋愛好会様、梁川陶芸サポーター会様のご指導ご協力頂いており、クラブ活動中の利用者

の皆さん生き生きとしたそしていつになく真剣に取り組む姿が大変印象的です。毎月の行事には季節感のあるもの、皆さんが楽しく参加できてるものをと職員が知恵をしぼつて考えています。事前の飾りつけにも気合いが入っています。そうすることでお囲み気を明くるだけではなく気持ちを楽しくし、その日が待ち遠しく思えてくるからです。「今から○○が楽しみだねえ」という皆さんのが嬉しく私達の励みにもなっています。

利用者の皆さんがいつも明るく楽しい気持ちで生活が送れるようになると努力の日々が続きます。

施設という集団生活の中で利用者の『プライバシー』をどう確保するかという事から、昨年、二人部屋と四人部屋へ衝立が設置されました。これにより、今までカーテンが開いていれば丸見え状態だった居住スペースが準個室化され、その人だけの空間を確保出来るようになります。家族の方が面会にいらしても、お互いに気を使うことなくゆっくりと過ごせるようになりました。

また、個室もいいが寂しいという利用者にとっても、周囲の人の気配に一人じゃないという安心感を感じながら、自分の時間を過ごせるというメリットもあります。衝立が設置されたばかりの頃は、皆さん少しとまどつておられたようですが、今ではうまく使いこなし自分の時間、皆など過ごす時間を楽しんでいらっしゃいます。

梁川ホーム

いにくくなるのでは?という事でした。しかし衝立が設置された事で見えない部分が気になり、かえって頻繁に足を運ぶようになります。

衝立があるからプライバシーは確保されていると思い込まず個人を尊重し気持ち良く生活して頂けるよう、今後も頑張っていきます。



1月15日 だんごさし

入れました





▲ゆず湯

冬至に際してゆず湯を行ないました。
「ほら、みてみらんしょ」香りのただよってきそうなスナップです。

そんな中ですが、今年に入つてまもなく利用者Kさんのお宅からあんぽ柿をいただきました。Kさんはとてもしつかりとされた方で社交的でもあり、ほかの利用者の方からも信頼されるやさしい女性でした。昨年末には毎年のことですが家の柿むきを手伝うからと休まれました。私は以前出欠の間違いでお迎えに尋ねて行き、作業室の真ん中できぱきと柿をむいてい

スでは、利用者の皆様にご自宅で収穫された、野菜や果物等をいたぐ機会がありますが原則的にご遠慮させていただい

ております。

そんな中ですが、今年に入つてまもなく利用者Kさんのお宅からあんぽ柿をいただきました。Kさんはとてもしつかりとされた方で社交的でもあり、ほかの利用者の方からも信頼されるやさしい女性でした。昨年末には毎年のことですが家の柿むきを手伝うからと休まれました。私は以前出欠の間違いでお迎えに尋ねて行き、作業室の真ん中できぱきと柿をむいてい

たKさんの凛とした姿がまぶたに焼き付いています。

「間もなく九十歳になるばあ様がむく柿だから楽しみにまつてらんしょ。」そう笑顔で言いで天寿を全うされました。

あんぽ柿



▶新年会

御節料理を前にホームでとれた梅酒で乾杯しました。
「ありがたい千手觀音に奉納されていました梅酒」という説明に「今年も元気にいきましょう」と声があがりました。

佛教では無常という言葉をよく耳にします。デイサービスはI型二十五名・II型十名の定員でサービスを提供していますが、三十五名そろうことは年間数回とないし、毎週毎週利用者

宿直者にも身構えたところがあり、宿直者にはお世話しなければという思いがあり、皆さんには今まで抱いていた夜間ににおける不安がなくなつたのはいいけれど、何でも頼んでしまいたい依頼心が生まれたことなどがありました。今はそれも落ちついたように思います。

ケアハウス広瀬は、特別養護老人ホームとの併設の施設なので、今まで特養の夜勤者にお願いしてきた夜間の対応を宿直者を置くことによって、より密度の濃いプラスアルバーの対応ができるようになりました。

介護保険制度でカバーできなく耳にします。デイサービスはI型二十五名・II型十名の定員でサービスを提供していますが、三十五名そろうことは年間数回とないし、毎週毎週利用者

から四ヶ月過ぎました。

当初は、利用者の皆さんにも宿直者にも身構えたところがあり、宿直者にはお世話しなければという思いがあり、皆さんには今まで抱いていた夜間ににおける不安がなくなつたのはいいけれど、何でも頼んでしまいたい依頼心が生まれたことなどがありました。今はそれも落ちついたように思います。

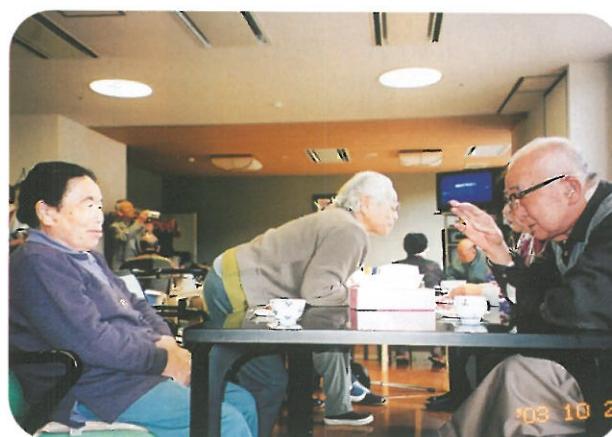
さて、四月からの新しい年度の始まりを迎える、今年も外出の機会を企画しています。毎月の買物ツアーや花見や紅葉がりなど社会とのつながりを大切にしていきたいと考えています。この年齢になると、頭も身体も使わないとたちまち衰えるのは目に見えています。身体を動かすことは、「しんどい」こともあります。



天神様と八幡様へ初もうでに行ってきました。



一年の締めくくりのクリスマス会。



ケアハウス土湯宝生園さんを訪問し皆さんと交流

ケアハウス広瀬

入居していただけるケアハウスを目指して

前回のホームだよりで、ケアハウスに宿直者を置くことになった経過とその後の様子を、少しお知らせしましたがあれ

りで、ケアハウスに宿直者を置くことになった経過とその後の様子を、少しお知らせしましたがあれ





▲もちつき
気のあう2人で息のあったもちつき、厄を払うように力強くきねをつきました。



の顔ぶれも変化します。まさしく常の無いところです。Kさんは「今日は楽しかったよ。」「デイサービスが楽しみだよ。どうもありがとうございました。」そんなふうにねぎらいの言葉や、お礼の言葉をかけてくれました。それに対して私たちも、Kさんの気持ちをきっちり受けとめていただろうか。Kさんはまだまだしつかりした方だから、この次のときにはと思ってやり残した事は無かつただろうか不安になりました。Kさんに限らず、今度来た



▲初詣
天神社と八幡神社で初詣「健康と長生き」をお願いしてきました。



時にやればいい、来週あつたときに・・・そんな気持ちを心の片隅にもつていいだろうか？
私たちも今一度気持ちを引き締めて、「一期一会」の精神でサービスを提供していくこうと反省しました。
Kさんのあんぽ柿はかみ締めるたびにあの優しさや凛とした姿が思い浮かび、どこか塩辛い味がしました。私はあんぽ柿をみるとたびにきっとKさんのことを思い出すだろう。そして今回反省したこと何度も思い直そう、そんなふうに思いました。

時にやればいい、来週あつたときに・・・そんな気持ちを心の片隅にもつていいだろうか？
私たちも今一度気持ちを引き締めて、「一期一会」の精神でサービスを提供していくこうと反省しました。

介護疲れから、親子無理心中の新聞記事を目にすると昨今ですが、お年寄りの介護で日頃悩んでいらっしゃることはありますか。

また、お年寄りの一人暮らしで困っていることはありますか。どんな些細なことでも一人で悩まないで、ぜひ梁川町在宅介護支援センターにご相談下さい。

一緒に考えるお手伝いをさせていただきます。日頃はご家庭を訪問させていただいておりますので、どうぞ気軽にお声をかけ下さい。

梁川町在宅介護支援センター



梁川ホーム指定居宅介護支援事業所



「自立支援」という言葉をよく目にします。これは、ご本人が望む生活を実現できるように手助けすること。ただ、ご本人さえもそれがどんな生活なのか気づかないでいることの方が多いのではないかでいることの方が多いのではないでしようか、私たちケアマネージャーは、ご本人や

ご家族のお話を聞き、専門的な意見を取り入れながら、ケアプランを提案させて頂いております。



更に、お一人お一人の思いが少しでも生活に実現できるようきめ細かいケアプランを、一緒に作成していくため、四月より



家具調のものもあります



使いやすくなりました



